

## 個別支援型 FD の研究

小田 隆治（地域教育文化学部，高等教育研究企画センター企画マネージメント部門長）

杉原 真晃（高等教育研究企画センター）

元木 幸一（人文学部，高等教育研究企画センターFD・授業支援クリニック部門長）

大島 武（東京工芸大学，高等教育研究企画センター客員教員）

立松 潔（人文学部，高等教育研究企画センター教育評価分析部門長）

坂本 明美（教職研究総合センター）

### はじめに

平成 19 年度、山形大学では高等教育研究企画センターに「FD・授業支援クリニック部門」を新設し、授業改善に悩んでいる教員を個別に支援することを開始した。そして、前期に実施した個別支援型 FD の実践的な研究を通して、10 月に学内の教員にその存在と利用を促す以下のような個別支援型 FD の紹介文を送った。

高等教育研究企画センターでは授業改善についてのご相談に応じています。

今年度（平成 19 年度）から、大学院教育課程における FD が義務化されています。また、平成 20 年度からは学士課程教育においても FD が義務化されるに至りました。

山形大学では、これまで自己研鑽・相互研鑽型の FD が推進されて参りましたが、本格的な FD 義務化を迎えるにあたり、高等教育研究企画センターは、授業改善に関する多様なニーズや状況に応えることのできる「個別支援型」の授業支援を開始いたしました。

- ・授業をよりよいものにしたい
- ・学生の学習の状況を知りたい
- ・授業の教材を開発したい
- ・授業の構成の仕方がよくわからない
- ・学生の意欲を向上させる方法を知りたい
- ・学生参加を促す教授方法を身に付けたい
- ・他の教員の授業を見たい
- ・授業をうまく進めることができない

- ・学生とのコミュニケーションがうまくとれない
- ・授業に自信がない
- ・授業の構成の仕方がよくわからない
- ・学生の意欲が低くて困っている
- ・学生の私語が気になる

上記のような思いを持っていらっしゃる方、ぜひ一度ご相談ください。

あなたのその思い、一緒に実現・解決したいと思っています。

授業が楽しくなる。学生の意欲が向上する。授業の幅が広がる。

個別支援型 FD を導入した理由については註を参照していただきたい。本論では、今後の個別支援型 FD の発展のために、平成 19 年度前期に実施した個別支援型 FD の研究内容を記録し、そのエッセンスを論じる。

### 研究対象とした授業

今回研究対象とした授業は、次の基準で選んだ。  
①本人の同意の得られること、②授業者に授業改善を行う積極的な意志があること、③我々の研究に積極的に協力してもらえること、④受講生が 100 名程度で通常の講義形態をとっていること、⑤FD に対する十分な知識や経験を有すること、そして現実的な問題として重要なのが、⑥今回の研究メンバーの授業がない時間帯に授業をしていることである。

以上の条件を満たす授業はそうはない。そうした中で山形大学の FD の草創期のメンバーであり、本論文の共同執筆者の一人である元木幸一が快く引き

受けてくれた。こうして火曜日 1 コマ目 (8 時 50 分～10 時 20 分) の全学の主に一年生が自由に選択することができる全学共通教育の教養教育で、「文化・行動領域」に属する『聖母・魔女・お姫様 (芸術)』の授業改善が始まった。

本授業の履修者数は 198 名で全学部の学生が履修していた。

### 授業改善の手法

授業改善を進めるために次の 6 つの手法を導入し実施した。

- ① 授業改善チェックシート
- ② 授業参観と検討会
- ③ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)
- ④ 授業改善ミニアンケートとその分析
- ⑤ 授業者のビデオを見ての振り返り
- ⑥ 学生懇談会

### 授業改善のスケジュール

授業改善は次のようにして進められた。授業改善の第一回目となる 5 月 8 日まではすでに授業が 3 回終わっていたことを断っておく。

#### 第 1 回目 5 月 8 日

- ・ 授業改善チェックシート
- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)

#### 第 2 回目 5 月 15 日

- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)

#### 第 3 回目 5 月 22 日

- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)
- ・ 授業改善ミニアンケート

#### 第 4 回目 6 月 5 日

- ・ 授業参観と検討会

- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)
- ・ 授業者のビデオを見ての振り返り

#### 第 5 回目 6 月 12 日

- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)
- ・ 授業者のビデオを見ての振り返り
- ・ 学生懇談会

#### 第 6 回目 6 月 19 日

- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)

#### 第 7 回目 6 月 26 日

- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)

#### 第 8 回目 7 月 3 日

- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)
- ・ 授業改善ミニアンケート

#### 第 9 回目 7 月 10 日

- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)

#### 第 10 回目 7 月 17 日

- ・ 授業参観と検討会
- ・ 授業のビデオ撮影とその分析 (授業クリニックコメントシート)

### 授業改善チェックシート

授業改善の第一歩として以下のような「授業改善チェックシート」を作成し、授業者に記入してもらった。それを以下に記す。

氏名 元木幸一 年齢      歳 性別 男 所属部局 人文学部

以下の問いにお答えください。

1. 教育経験年数についてお答えください。

25年(うち、山形大学で25年)

2. 研究分野をお教えてください。

西洋美術史

3. 担当の授業科目をお教えてください。

聖母・魔女・お姫様(芸術)

4. 現在、授業について「さらに向上させたいこと」や「改善したい課題」がありますか？

その内容にあてはまるものを以下の a~l から選んで○印をおつけください。(複数回答可)

a.15 回分の授業計画(授業内容の構成)

b.授業内容の学問的水準

◎.学生を引きつける授業内容

d.プレゼンテーションの方法

e.学生とのコミュニケーションのとり方

⑥.授業内の時間配分

⑧.情報機器の活用方法

h.成績評価の方法

i.出欠、遅刻、私語、居眠りなどのチェックを含むクラスマネジメント

⑩.学生の理解度を把握する方法

k.授業に自信を持つにはどうすればよいか、その方法など

l.その他( )

5. 改善したい課題を具体的にお書きください。

・学生に要点をはっきりさせる。

・授業中の休息。

・授業者すでに在室しており、スライドや AV 機器の準備を行っている。多くの学生が入室している。教室に満遍なく座っている。

48・元木一杉原対談(ビデオの設置等について)

50・出席カードと資料配布の説明

・授業開始のブザーが鳴る。

・「出席カード、後の方余ってないか？」

・「おはようございます」を2回言う。

・「連休中に旅に出た人？」手を挙げさせるが、誰もいない。

・「静かにしよう」

53・「私は連休中ずっと3月締め切りの原稿を書いていた。それを終えることができました」

・『よき人ためのソナタ』という映画を見た。近年見た映画の中では一番よかった」

・「現代社会は少しずつ悪くなっていると思う。小さな勇気を持って行動することが大事だということをこの映画は語っていた」

55・後ろに座っている授業参観者の紹介。

・学生静かになる。

・男子学生1人入室。

58・前回の質問・感想カード(出席カードの裏面)の内17枚を読みそれに答える。

・学生1人入室。

09:16・質問・感想カードを終え、本日の授業を開始。

・配布した「資料3」に基づいて今日どこまでやるのかを明示する。

20・スライド開始

### 授業参観と検討会の模様

授業の改善はこの授業参観と検討会を中心に進められていった。授業参観は以下のように学生と授業者の客観的な行動観察を基本とした。授業観察記録の一例を以下に記す。

日時：2007年5月8日(火) 8時50

分~10時20分

教室：教養教育2号館・221番教室

(306名収容)

授業者：元木幸一

記録者：小田隆治

08:45・小田入室

- ・マイクを持って学生に印象を聞いて回る。
- 26・スライド終わり。明かり。学生に協力してもらいスクリーンを上げる。
- ・プリントに沿って説明していく。
- ・男子学生 5 人伏せ寝（後ろから 5 列目まで）。
- 35・スライド再会。
  - ・一瞬の雑談「昨日サクランボ食べました。すごいでしょ」
- 42・一番後ろの寝ている学生をあてる。学生はスライドが見えない、という。授業者は「前の方に行って座った方がいいよ」と言う。
- 50・トムとジェリーのこと、学生にわかるの？
  - ・16 人伏せ寝（後ろから 9 列目まで）。
- 58・明かり
- 10:03・11 人伏せ寝（後ろから 10 列目。前から 9 列目）。
- 04・スライド再開
  - ・「高見盛が負けたときのような格好」。高見盛、学生にわかるの？
- 16・明かり。
  - ・学生はみんな片付け始める。
  - ・来週の予告。「出席カードの裏に質問や感想を書いてください」
- 18・学生退出
- 25・最後の学生が出席カードを提出。
  - ・授業者は黒板消しをきれいにし、教室の明かりを消す。

授業参観後、毎回授業者を交えて検討会を行った。時間は 10 時半から 12 時までの 90 分間実施した。次に検討会の記録を記す。

個別支援型 FD 検討会（元木先生） 2007/5/8 文責：杉原

話題にのぼった論点

◆ 授業内容について

- ・単なる美術史ではなく、その背景となる宗教を前面に出している。
- ・概論というより、一種の専門教育のような教養教育。
- ・物語としてのおもしろさがある内容なので、集中して聞いてもらわないといけない。
- ・そのための工夫として、途中で雑談を入れる、途中で小休憩を入れるなどを行うのもよい。
- ・スライドが見えないとおもしろくもなんともない授業になってしまう。後ろに座っている学生は、余計におもしろくなくなってくる。

◆ 学生の質問・意見を読み上げることについて

- ・受講者数が 200 名ほどいるので、毎回は無理（本授業は 5 回とると言っている）。
- ・一回読み上げたら 1 点プラスするようにしている。
- ・おもしろいもの、数の多いものを取り上げるようにしている。
- ・「これは×」というものを取り上げて「×だ」ということを知らせるのもよい。
- ・授業中に 10 分を超えると「長すぎる」というコメントが生じる。
- ・質問に答えるという形式ではなく、授業内に組み入れるという形式をとるとよいかもかもしれない（先週の内容なので、実際に組み入れることは難しいかもしれないが）
- ・学生のコメントにすべてコメントを書いている教員もいるが、それは負担が大きい。しかし、学生はそれを基準に他の授業を比較する場合もある。

◆ 学生の基礎知識・予備知識について

- ・テキストを事前に読んできてもわからないだろうと判断しているので、特に読んでくることを前提とはしていない。
- ・わからなくてもいいから、「小説みたいに通して読む」ことで感じ・味わえるものがある。
- ・学生は、受験用学習を身につけてきているので、部分部分をマーカーで線を引いて覚えることには慣れているが、この授業はそういうものでもない。

- ・配付資料に書いてあるものは、スライドのタイトルと作者くらいなもの。授業内容については、テキストに書いてある。資料には、該当するスライドがテキストの何ページに掲載されているかを書いている。
  - ・学生は書いてあるだけでは対応させられないかもしれない。口頭で「テキストの何ページ」と言った方が学生も意識できるのではないか。
  - ・我々の常識に頼ってはいけない。学生は知らないことが多い。(例)「高見盛」を知らない学生も多いのではないか。
- ◆ 学生に挙手を求めることについて
- ・わかりやすい(答えやすい)質問に対しては答えやすい。
  - ・手を挙げてくれる人がいることを想定して尋ねている。
  - ・わかりにくい(手を挙げにくい)質問を繰り返していると、わかる時にも手を挙げなくなってしまうこともある。

◆ その他

- ・やる気のある学生も、仲間と一緒に座ることを優先してしまっている場合がある。仲間がやる気がなく寝てしまっていると、その雰囲気にも飲まれ(また、後ろに座るのでスライドが見えづらい)、やる気のある学生も次第にやる気を喪失していくことも考えられる。

毎回実施した授業検討会で話題になった具体的な改善点のうち、次の授業から導入された主要な改善点は以下の通りである。

- ・ 授業半ばに数分の休憩をとる。
- ・ 購入したテキストを授業中に読むなどして、テキストを有効に活用する。
- ・ 学生同士が話し合う場面を作り出す。隣の人と話し合わせる。
- ・ 話し合う時間を学生に知らせていなかったもので、事前に時間を伝えるようにする。
- ・ 『ジャンヌ・ダルク』のような当時を題材とした動画を見せる。
- ・ 授業の最初に授業の構造を明示する。口頭よ

りも黒板に書いたり配布資料に目次を書く。

### 授業のビデオ撮影とその分析(授業クリニックコメントシート)

毎回授業と検討会をビデオ撮影し、それをDVDにダビングして、遠隔地にいる大島武に送って、以下のような授業改善クリニックコメントシートに書き込んでもらった。これを返送してもらい、検討会等で題材にし、授業改善に活用した。

授業改善クリニックコメントシートは、①内容、②表現、③資料の3項目からなり、それぞれについて、1) 良い点と2) 改善点が記された。加えて、総評も毎回記入された。

この成果は、遠隔FDの研究にも活用することができる。ビデオの観察では、教室内の観察と違うところも認められた。特に、ビデオ観察では授業者の行動に注意が傾くようであった。また、ビデオ観察では教室の雰囲気の把握が遅れるようであった。

5月8日 分析： 大島武

◆内容(良い点)

- ・ 授業冒頭で学生からのコメントカードに丁寧に回答した。(授業の導入としても、双方向性の確保という点からも適当である)。
- ・ スライドを多数提示しながら、その寓意や背景を解説する構成は巧み。(専門家としての奥深いコメントが多数有り、モチベーションの高い学生にとっては十分に興味深い内容構成となっていると思われる)。

◆内容(改善点)

- ・ 紹介するコメント(及びそれへの回答)の数が多すぎた。
- ・ 内容に関わる問題提起と、授業の進め方に対しての意見を混ぜて紹介したのは良くない。  
→内容に関するものを先に2~3件/授業運営に関するもの(あれば)を1~2件を紹介するくらいが適当ではないか。
- ・ スライドを次々に見せていく手法は面白いが、話しの先が見えない。(学生にとって授業全体のイメージ、メッセージが受けとめにくい状

況になっている) →何らかのテーマによって絵を分類するなどして、話しの柱を作ってはどうか。

#### ◆表現 (良い点)

- ・ 話し方が綺麗で、滑舌もよく、聞きやすい。
- ・ 学生に話しかける口調は親しみが持ててよい。
- ・ 絵を見せながら、学生に適宜、問いを發し、双方向性を確保しようと試みていた。「この絵は何に見えるか?」の問いは、正解を言わなければというプレッシャーが少なく学生にとって答えやすい、よい發問例である)。

#### ◆表現 (改善点)

- ・ 話し方にやや「メリハリに欠ける」印象がある。→学生が「ここが大事なポイントだ」と感じられるように声の調子を変えるとよい。
- ・ 学生に対する姿勢が常にナナメで、若干揺れている。→スタイルとして悪くはないが、時に完全に静止し、学生に正対して話すとなおメッセージ性が高まると思われる。

#### ◆資料 (良い点)

- ・ 提示資料 (スライド) は見やすく、操作も上手で、熟練が感じられる。
- ・ 配付資料も細かすぎず、一回の授業で消化するのに適切な分量である。

#### ◆資料 (改善点)

- ・ 配付資料は、それ自体をもっと整理して、話しを聞かなくても概ね内容がわかる参照型にするか、またはメモを取らせて完成させるフォーマットにするとよいと思われる。

#### ◆総評

常に学生との双方向的なコミュニケーションを心がけた授業運営には大変好感が持てました。教授する内容も、豊富な提示資料をベースに、ご専門の知識が十分に披露され、もともと関心のある学生のニーズには十分に応えられていると思います。しかしながら、モチベーションの低い学生が含まれていることも考えると、更に授業内容を興味深いものにするための工夫が求められると思います。一つには、「話しの構造化」により、授業全体の構造・構成を冒頭で明確にすること。これにより、学生は授業の

全体像を見据えることができ、落ち着いて授業を聞くことが出来るようになります。今ひとつは、例の出し方をもう少し学生に身近なものにすること。極端に媚びる必要はありませんが、こうした過去の芸術作品を理解することが、学生達の日常やモノの考え方に大きく影響することをわからせるような例示や比喻は必要です。また、このスタイルの授業の宿命的な点かもしれませんが、学生はうまくノートが取れていない様子でした。スライド解説の途中、暗がりの中で、先生のお話のポイントのみを上手にメモするのは、学部生には至難の業でしょう。記録がきちんとできないことは、授業への不満要素に成り得ます。一定数のスライドを見せた後、黒板にポイントを整理してあげるとよいのではないかと思います。

全体を通して大島によって指摘された主要な改善点は以下の通りである。

- ・ 紹介する学生のコメントは基本的には批判しない方がよい。
- ・ 話しの構造化がやや不十分。→できれば2～3の主題を設定し、それにより時間を配分して説明した方がよい。
- ・ 学生に發問する際に、若干「詰問調」になる傾向がある。→もう少し答えやすいような聞き方 (声の調子等も含む) を工夫したほうがよい。
- ・ 「寝ている人がいますねー」と言ったコメントは、あまり多用しない方がよい。
- ・ 教科書を参照する時間が短い。
- ・ もう少し授業の「始め」を意識するとなお良いかもしれない。学生がガヤガヤしているうちから先生が何となく話し始め、しばらくして授業が始まったことに気づいて少しずつ静かになる、あるいは先生が注意する。現行はこんな感じだが、まず静かにさせてから第一声という形をとった方が、緊張感がでて良いのではないだろうか。
- ・ 休講は教員の都合で勝手に休むのだから、申し訳なさそうに言うのがエチケット。最近

- 休講の多い教員に対してクレームが発生することも私立大学ではよくある。
- ・ 試験について気になっている学生が少なからずいる模様。→「ここは覚えてほしいところ」「ここは楽しく聴いてくればよいところ」「ここは各自で考えてほしいところ」などと、内容をある程度「区切ってみる」と学生も聞きやすいのではないかな。
  - ・ 不要と思われる楽屋ネタがある。（「輪転機が壊れたので資料に不備がある」などは学生のためになることではないし、学生の聞きたいことでもない）。
  - ・ 試験がどのようなものになるのか、もう少しヒントを与えて、学生に「頑張りどころ」をはっきり提示することが大事であろう。また、板書も、基本的には書いてあることを見るだけである程度のストーリーがわかるよう、もう少し改善できるといいと思う。
  - ・ 休憩を入れるのは良いが、休憩後の再開をもう少しクリアに行いたい。→大きめの声で注意を喚起し、「では、後半は〇〇の話になります」など、内容的な区切れを強調するとよい。
  - ・ 今回に限らず、授業の終わり方がやや唐突な印象がある。長々やる必要はないが簡潔にその日のポイントを言い直すと授業としてのまとまりがでるのではないかな。
  - ・ 学生の質問／コメントを読み上げた後、それに答える前に、あと一拍ほど間をおくとより聞きやすくなる。
  - ・ テキストを目で追わせているはずの時間帯に教室が暗いのは良くない。
  - ・ 今回は、コンセプトの説明にあたって比喩表現がかなりの効果を挙げたと思うが、「宮川大助・花子」にしても「吉原」にしても、一部の学生が「全く知らない」というリスクはある。既知かどうか不明の場合は、板書して軽く説明する方が無難。
  - ・ 学生をあてたとき、その回答は総じてボソボソとしていて聞き取りにくいので、先生が

- それを大きな声で復唱するようにするとよい。
- ・ 遅れてきた学生が取る資料は、教室の後にいた方がよいのではないかな。
  - ・ 今回、少し板書が気まぐれっぽく、同じ程度に重要と思われる「キーワード」でも書いたり書かなかったりという印象があった。
  - ・ 遅刻をした学生がチョロチョロと前に来て、何か欲しがる姿が今回目立った。→初回の授業を聴講していないのでルールがはっきりわからないが、基本的には最初から授業に参加していた学生が最も利益を得るような方式を考えた方がよい。
  - ・ 板書は、途中で消すことを厭わず、もう少し多く書いてもいいかもしれない。
  - ・ 出席カードの扱いですが、「遅れて来てもらえる」「代返も可能」といった現行の問題点はあると思う。大学の授業なので「出席は取らない」という選択肢もあるだろう。ただ、「出席を取り、しかも成績に加味する」方針でゆくなれば、やはりもう少し厳格に運用した方が学生の公平感の点からも良いと思う。私は大教室の授業でも1枚1枚学生に出席カードを配っている。200人程度の授業だと5分もかからず、またアイコンタクトをとり、机の状況をチェックすることでちょっとした内職防止効果もあるようだ。その時点でいなかった学生は遅刻として、授業終了後に集め、別の色のカードを渡す。少なくとも筆跡鑑定よりは遙かに少ない労力ですむと思う。

### 授業改善ミニアンケートとその分析

授業改善に受講生の声を反映させるために、2回「授業改善ミニアンケート」をとり、それを集計し分析した。アンケートは以下の通りである。

平成19（2007）年5月22日

以下の問に対する回答として当てはまるものを選び、その番号に○印を付けてください。

- 問1. あなたの所属する学部等を教えてください。  
問2. あなたの入学年度を教えてください。

- 問3. あなたの性別を教えてください。
- 問4. 今日の授業の途中で休憩をとりましたが、それは学習上、効果がありましたか。
- 問5. 学生にマイクを向けて発言を求めることは、授業の工夫として適切だと思いますか。
- 問6. 教員の一方通行的な授業を改善するための工夫は、現在行っている方法（マイクを回しての発言、出席カードの質問への返答など）だけで十分だと思いますか。
- 問7. 出席カードの質問に対する説明時間は妥当ですか。
- 問8. 配布資料（プリント）は学習上、役に立ちますか。
- 問9. 今日の授業は総合的に判断すると良い授業だと思いますか。
- 問10. 最後に、今日の授業を受けての感想（良かった点、改善すべき点）を何でも書いてください。

平成19（2007）年7月3日

以下の問に対する回答として当てはまるものを選び、その番号に○印を付けてください。

- 問1. あなたの所属する学部等を教えてください。
- 問2. あなたの入学年度を教えてください。
- 問3. あなたの性別を教えてください。
- 問4. 板書を写す程度はどのくらいですか。
- 問5. 教員の話をもとにとる程度はどのくらいですか。
- 問6. 板書を写す、メモをとる等はスライドを見ている時（部屋を暗くしている時）に行っていますか。
- 問7. 板書を写す、メモをとる等は、どのスペースに行っていますか。（複数回答可）
- 問8. 今日の授業は総合的に判断すると良い授業だと思いますか。
- 問9. 本授業に対して現在持っている感想（良かった点、改善すべき点）を何でも書いてください。
- 問10. 試験問題について、① よいと思う点、② 疑問点・不安点があれば書いてください。

第一回目のアンケートでは、5段階の平均点は問4が4.10、問5が3.63、問6が3.94、問8が4.45、問9が4.12であった。集計は①座席位置別、②学部別、③入学年度別、④性別などで詳しく分析した。集計結果とその分析の詳細については紙面の都合により別に譲ることとする。

### 授業者のビデオを見ての振り返り

6月26日の検討会において、ビデオを撮ったものを授業担当者に見てもらい、授業改善に活用してもらった方がいいのではないかと提案され、実施することになった。単に見てもらうだけではなく、そこで気づいたことを記録してもらうことにした。授業者には、見る観点をこちらから提示するのではなく、自由に見てもらうことにした。

授業者の観察記録は以下の通りである。

《 DVD を 授 業 者 が 見 た 観 察 記 録 》  
by 元木幸一

（6月5日） 25分に故障。

- ・ 意外に真面目に聴いている学生が多い。ただ、中列の女子学生四人がずっと私語をしており、後列の男子学生が別の本を開いている（多分他の科目の予習）。
- ・ 最初の3分間くらい資料をとりに行く学生がうるさい印象。  
→最後席に置くなどの工夫が必要かもしれない。
- ・ 話す姿勢が悪い時がある。片手を机につけていること多し。
- ・ 冗談などをぼそぼそというとき、聞きにくい。まあ、これは聞かなくても良い内容だが、少なくとも授業の参加意識への障害とはなる。
- ・ この時は、それまでスイッチ係をやってくれた学生がいなかったため、何度もスクリーンなどのスイッチを操作するために降りたり、上ったりして授業の流れが妨げられている印象。→これは翌週から3年生の学生に頼んだので解消された。

(6月12日)

- ・ 以外に真面目な授業ではないか。
- ・ 1分間話し合いでは、後列も話し合い、かなり効果的のように思われる。
- ・ テキストを持っている学生は意外に多い。→効果的に使用する必要あり。
- ・ 下を向いて講義すること多い。→もっと学生を見た方がよい。
- ・ 後ろから2列目の女子学生は内職をしている。暗くなってもまだやっている。
- ・ 大島氏の指摘通り、この回は「えー」という発言が多い。←このころから授業クリニックの検討内容が気にかかりながら授業をしているからか。
- ・ クラーナハの部分図スライドは確かに全体図が欲しい→全体図スライドを撮りましょう。
- ・ 学生のマイクでの声はあまり聞こえない。
- ・ 最後にまとめると良いと思った。

以上のように、授業者がビデオを見て自分で授業の振り返りをするのと同時に、検討会で指摘されたことを再確認するという意味が大きいことが分かる。

## 学生懇談会

学生懇談会には1年2名、2年1名、3年2名の合計5名の学生が参加した。いずれも女子学生であった。

学生懇談会の記録は以下の通りである。

### ◆受講の動機について

- ・ シラバスを見て興味をもった。
- ・ 2年の時に履修しておもしろかったので今年もとった。
- ・ 美術に興味がある。
- ・ 「これでいいか」という軽い動機。
- ・ みんながこの授業の部屋にバーッと入っていったので、いい授業なんだと思い履修。

### ◆授業のいいところについて

- ・ 学生にいろいろ話を聞いて回るのがいい。いろんな人の話を聞けて楽しい。自分とは違う考えに気

づける。

- ・ 自分たちの質問（カード）に答えてくれるのがよい。
- ・ 先生の声が聞きやすい。考える時間を与えてくれる、ゆっくりとした話し方、間がある。
- ・ スライドを見ながら、絵について考えられるのがよい。
- ・ スライドをアップにしてくれるところがよい。
- ・ 絵の意味（背景や、そこに書かれているものが象徴しているものなど）の説明があるのがよい。表面的ではなく、絵の意味を考えることができる。

### ◆改善点について

- ・ 基本的には、なし。
- ・ あえていうと、(仕方ないけれど)スライドのため部屋を暗くすると眠くなる。
- ・ 休憩3分なら要らないかも。その分、授業の最後の方がバタバタとする。
- ・ 書くのが遅いので、板書の後、すぐスライドで部屋を暗くすると書けない。

### ◆授業の内容（難易度）について

- ・ 用語でわからないものもある(ex マグダラ、聖書の中身)。
- ・ 配布資料に載っていないスライドがたまにあるので、その時はちょっととまどう。
- ・ どの授業も100%わかるものなどないので、どのくらい興味を持てたか、後で調べてみようと思えるかが大切。わからないところもあるけれど、おもしろい。
- ・ テーマを絞っているなので、内容の流れはつかみやすい。
- ・ わからない用語や内容が出た場合、その場で(電子)辞書をひく。
- ・ たまに教員に聞くこともある。
- ・ オフィスアワーは利用していない。どこに誰がいるかわからない。

### ◆配布資料について

- ・ 分量はちょうどいい。
- ・ むしろ(他の授業に比べて)少ない方。
- ・ 板書を写したりやメモを書いたりするので、もう少し余白・空白部分があるとうれしい。

・プリントの裏は、同時に見られないので書かない。

懇談会に参加した学生はこの授業に高い評価を与えていた。こうした学生の生の声は教員を励ますことにつながる。ここで出た板書やメモを取るために、配布資料の余白を大きく取って欲しい、という学生の要望は次回の授業から活かされた。

### 授業は改善されたのか

以上見てきたように、今回は膨大な時間と労力をかけて授業改善の試みがなされた。では、その結果、今回の授業は改善されたのであろうか。その評価を、大学で組織的に毎年実施している「学生による授業改善アンケート」を使って、昨年度と今年の結果を比較することによって検討することにしよう。授業者は昨年度の後期に同じ授業を実施し、その授業の履修者は201名と今年198名とほとんど同じであった。

総合点が昨年度の3.80から4.27と0.47ポイントも上昇した。「教え方(教授法)はわかりやすかったですか」という設問は3.75から4.12、「教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか」という設問は3.59から4.02、「内容を理解できましたか」という設問は3.48から3.86、といずれの設問項目においても大幅に上昇していた。このことはそれがすべてとは言わないまでも、今回の個別支援型FDの成果の表れと評価してもいいだろう。

### さいごに

元木はあと1回の授業を残して、検討会で次のように語った。「授業改善のために、授業中、心に余裕がない。上滑りになって、授業に迫力がなくなっている。学生に対して、最後の授業はその授業(学問)の印象形成にとっても大事である。「終わりよければ全てよし」という諺もあるので、これまでのFDの助言は忘れて、最後の授業は迫力で勝負する。本来の自分に回帰する。しかし、これまで培ってきた授業改善の努力はどこかに生きているはずである。そう願いたい」。

授業は単なる手法ではない。我々は授業検討会でかなり授業内容に踏み込んで検討した。もちろん授業はその内容が命である。そして、内容を学生に伝えるためには、元木が語るように、迫力といったものの占める位置も大きいことは間違いない。ここで全てを述べることができなかつたけれども、我々はそうしたことを全て含みながら授業改善の研究に努めてきた。

個別支援型FDは授業を改善しようとする意志のない教員には何の实りももたらさないであろう。授業を改善しようとする意志のある人に対して、その人に合った改善方法を模索していかななくてはならない。そのためには我々の引き出しに多様な方法を持ち合わせる必要がある。この研究はその第一歩である。

### 註

平成18年度山形大学教養教育改善充実特別事業報告書『教養教育 授業改善の研究と実践』(平成19年3月発行)の「第5章 さらに授業改善に向けて」と『第57回東北・北海道地区大学一般教育研究会 研究集録』(平成19年発行)の「授業改善に有効な個別支援型FDの試み」(53~56頁)を参照していただきたい。